

令和5年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立池上小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・高学年においては、6年生は昨年度課題が見られた図形に関する問題は、具体物を用いて考える時間の設定や、練習問題の反復などの効果がみられ、正答率が大きく上がった。
- ・タブレットドリルやドリルパークなどを活用が定着してきて、児童が自分で未定着の既習事項に関して復習しやすい環境ができた。

(2) 課題

- ・図形、繰り上がり繰り下がりが複数ある計算、分数の問題を苦手とする学年がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較） 評価の記号は、「△…上回っている」「▼…下回っている」

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	ほとんどの項目において目標値を上回ったが、前年度のものと比較するとほとんどの項目において上回った。 ・数と計算 △ ・図形 △ ・変化と関係△ ・データ活用△ 観点別（目標値比較） ・知識技能 △ ・思考判断表現 △ ・主体的 ≍ という結果になった。		
第5学年	ほとんどの項目において目標値を上回った。 領域別（目標値比較） ・数と計算 △ ・図形 ▼ ・変化と関係△ ・データ活用△ 観点別（目標値比較） ・知識技能 △ ・思考判断表現 △ ・主体的 ≍ という結果になった。	すべての項目において目標値を上回った。 領域別（前年度比較） ・数と計算 △ ・図形 △ ・変化と関係△ ・データ活用△ 観点別（前年度比較） ・知識技能 △ ・思考判断表現 △ ・主体的 △ という結果になった。	すべての項目において目標値を上回った。 (第4学年時)
第6学年	すべての項目において目標値を上回った。	ほとんどの項目において目標値を上回った。	ほとんどの項目において目標値を上回った。

領域別（目標値比較） ・数と計算 △ ・図形 △ ・変化関係 △ ・データ活用△ 観点別（目標値比較） ・知識技能 △ ・思考判断表現 △ ・主体的 △ という結果になった。	領域別（前年度比較） ・数と計算 ▼ ・図形 △ ・変化関係 ▼ ・データ活用△ 観点別（前年度比較） ・知識技能 ▼ ・思考判断表現 ▼ ・主体的 同様 という結果になった。	領域別（前年度比較） ・数と計算 △ ・変化と関係△ ・図形 △ ・データ活用▼ 観点別（前年度比較） ・知識技能 △ ・思考・判断・表現 ▼ ・主体的 ▼ (第5学年時)
--	---	---

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・繰り上がりがある3けた＋4けた＝4けたの計算をする問題で目標値を下回った。 ・基本的な知識を用いて、正確に計算することが出来る力の育成のため、毎日簡単な計算練習をさせるといった指導が必要である。 ・正三角形を作図する問題について目標値を大きく上回った。	・すべての問題において目標値を上回った。 ・どちらの道のりの合計が短いかを説明する問題で課題がみられる。 ・文章問題を□を使った式に表す問題は前年度と比較して正答率が伸びている。日ごろの指導の成果が表れている。	・すべての問題において、目標値を上回り、算数の学習に意欲をもって取り組んでいる児童が多いと言える。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・5年生は、全国へ平均と比べると、1ポイント弱低い。特に図形の問題の結果から、基礎的な知識が定着していない模様。 ・6年生は、昨年度と比べ、全体的に正答率が上がっている。分数での表現の仕方にやや課題がみられるため、計算の反復練習が必要。	・5年生は全国平均よりも高いものの、区平均とほぼ同様の結果となっており、特に理由を説明する問題に課題がみられる。 ・6年生は、全体的に全国平均か、それ以上の結果となっているが、比例、単位量当たりの大きさに関する問題の思考にまた課題が見られる。	・タブレットの活用によって、5、6年生とも学習に対する意欲が高まり、空いた時間を活用して課題に取り組む児童の姿がみられる。 ・学力に課題のある児童において、学習内容の定着が難しい児童がおり、主体的に取り組んで乗り越えられるようサポートが必要。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・算数ブロックやおはじき、数カードなどの具体物や図な	<u>・自分の考えを絵や図、言葉などで表現したり発表したり</u>	<u>・身近な場面を問題にし、学習意欲を喚起させる。</u>

どを用いた活動を取り入れることで計算の仕方考える力を養う。 ・<u>長さやかさを予想しながら実測する中で量の感覚を身に付け、適切な単位を選んだり単位換算をしたりする力を身に付けさせる</u> ・タブレットドリルやドリルパークなどの ICT 教材やワークブック、計算カードを活用して反復練習をし、計算の力を高めさせる。	<u>する時間を設定し、自分の考えをもち伝えることができるようにする。</u> ・課題や問題を読んだり場面絵を活用したりして、分かっていることや求めることを理解させてから取り組ませる。正しく立式するために、文章の中のキーワードや数字にマーキングをさせる。	・各自にブロックや数カード、図形カードなどの<u>具体物を操作させ</u>、数量や図形に進んで関わらせる。デジタル教材も活用し、興味関心を高める。 ・<u>学習を振り返ったり</u>、生活場面で活用したりして、算数を学ぶよさを実感させる。 ・必要に応じて<u>ペアでの話し合い活動を行い</u>、友達の考えからヒントを得たり、新たな考え方を発見できるようにしたりする。
---	---	---

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・3けた＋4けた＝4けたなど繰り上がりが複数ある計算については、繰返しプリントなどの課題に取り組ませることで継続して習熟を図るようにする。 ・<u>桁数が多い計算は既習内容を振り返らせ、必要に応じて位取りを表使って考えたり、説明ができるようにしたりして理解を深める。</u> ・新しく出て来た算数用語は丁寧に扱い、意味の理解を確実にする。 ・タブレットドリルやドリルパークなどの ICT 教材やワークブック、計算カードを活用して反復練習をし、計算の力を高めさせる。	・<u>どちらの道のりの合計が短いかを説明する問題で課題がみられることから、生活場面とつなげて考えさせ単位の関係性を確認し、長さの加減法の適用の仕方について、理解を深めるようにする。</u> ・自分の考えを図、表、言葉、式などいろいろな方法で表現させ、根拠を明確にして説明できるようにする。	・算数が苦手であっても、確実に理解したり、活躍したりすることができるように<u>単元ごとにコース分け</u>を工夫して行う。 ・見通しをもって問題解決に取り組もうとする態度を養うために<u>既習事項を活用する</u>よさや既習事項がどんな内容だったのかを確認するように指導する。 ・必要に応じて<u>話し合い活動を行い</u>、友達の考えからヒントを得たり、新たな考え方を発見できるようにしたりする。 ・タブレットドリル等の活用をして、児童が自らの学習を調整しながら学んでいけるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・<u>図形の単元では実際に折り紙などの具体物を使って考えたり、身の回りの物の面積がどれくらいの大きさなの</u>	・<u>比例、単位量あたりの大きさについて理解させるために繰返し練習問題を行った</u>り、<u>具体物を使って考えた</u>	・<u>振り返る時間を設け</u>、1年間で伸びていることを意識させながら、学習意欲を高めていくようにする。

<u>か表現させる量感を掴ませる活動を定期的に行ったりする。</u> ・ <u>通分や帯分数から仮分数への変換などに重点を置き、分数での計算方法の定着を図る。計算方法だけでなくそれぞれの分数が表している意味なども丁寧に扱う。</u> ・ 単位の表す大きさや、言葉の表す意味を都度確認、掲示することで、基本的な知識の定着を図っていく。	<u>り、答えを確認したりする時間を設定する。</u> ・ 自分の考えを図、表、言葉、式などいろいろな方法で表現させ、根拠を明確に説明できるようにする。 ・ 考えを交流する際に、他の児童の考えが、どうして、なぜそうなるのかといった意見を大切にして授業を行う。	・ 既習事項の定着が十分でない領域において、<u>指導時に系統性を意識して</u>、関連のある既習内容（用語や性質や計算の決まりなど）を振り返り、新たに指導する内容に取り組んでみようとする態度を育てる。 ・ 算数が苦手な子でも授業で活躍できるように<u>単元ごとのコース分け</u>を工夫して行う。 ・ 必要に応じて<u>話し合い活動を行い</u>、友達の考え方と自分の考えを比較したり、新たな考え方を発見できるようにしたりする。 ・ <u>タブレットドリル等の活用</u>をして、児童が自ら学習履歴を把握学んでいけるようにする。
--	---	--